

平成30年度 学校評価（年度末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・自己評価								
担当	重点目標	重点(具体)項目	自己点検	アンケート調査評価点の見方 (4-そう思う、3-ややそう思う、2あまりそう思わない、1-そう思わない) 平均値=(4+3+2+1)÷4=2.5 1←(悪い)→2.5←(よい)→4				自己評価 4-できている 3-まあまあできている 2-あまりできていない 1-できていない			円グラフの凡例 無回答(未記入)の割合 肯定的評価(4または3)の割合 否定的評価(2または1)の割合	
				評価方法 アンケート	実施状況 (回数等)	生徒 498人/500人 (99.6%)	保護者 449人/500人 (89.8%)	教職員 40人/45人 (88.9%)	学校評議員 3人/3人 (100%)	項目 毎 評価		中項目 (平均)
進路	重点目標Ⅰ	1 キャリア教育の推進	進路探求への取組	アンケート1 「進路について相談している」	随時	 3.1	 3.1	 3.3	 3.3	3	3.0	・進路研究の機会が1年次より数多く設定されていると思うが、それらが有機的につながっているかは分からない。 ・前年度までの例に従って行事を実践しているわけだが、本当に有効かあるいは有効であったか振り返る余裕がなかった。行事によっては変更の必要があるものもあるかもしれないと思う。
			進路講演会・企業学校見学会の実施	アンケート2 「進路講演会や学校、企業見学は役立つ」	1月～2月に実施する予定	 3.1	 3.2	 3.3	 4.0	3		
学研	総合学科教育の推進	2 科目選択のサポート	進路意識の高揚	内部評価	1年次6回 2年次4回 3年次1回	①1年次「産業社会と人間」で職業に関する講話(5/16, 1/16)や職業インタビュー(11/6)とマナー講習会(10/3)、進路ガイダンス(12/12, 2/20)を実施した。 ②2年次「総合的な学習の時間Ⅰ」で卒業生による職業講話(6/12)、進路ガイダンス(7/10):入試対策講演会・専門学校講演会・系統分野別分科会、就職講演会、公務員受験対策講演会を進路別に実施、進路別グループディスカッション(12/11)、進路別講演会(2/5) ③3年次「総合的な学習の時間Ⅱ」で進路相談会(5/23):進学・公務員講演会、学校別分科会、就職講演会を実施した。				3	3.0	・「産業社会と人間」や「総学Ⅰ・Ⅱ」は年次と学習研究部の協力の下で計画的に実施されているが、時間と内容、人員の配置など窮屈な状況になっている。 ・「産業社会と人間」の地域理解のための校外学習が、自然環境の変化により実施が難しい状況なので、これまでの授業の実施方法や実施時期について再検討が必要になってきている。 ・科目選択に関して、昨年度に比べ生徒・保護者・教員のいずれも否定的評価が増えているが、教員定数の削減という物理的制限以外の部分で、各教科の更なる工夫が必要になっている。
			科目選択指導	アンケート3 「進路にあった科目選択ができている」	2年次:5時間 1年次:10時間 1年次保護者1回	①2年次については、「総学Ⅰ」の授業で2時間、ガイダンス1回を実施した。夏期休業中に保護者との3者面談を実施した。 ②1年次については、「産業社会と人間」の授業で6時間・LHRで2時間及びガイダンスを1回、保護者向けにガイダンスを1回を実施し、さらに夏期休業中にも3者面談を実施した。				3		
教務			教育課程編成の工夫	・教科別検討会議 ・教育課程委員会		 3.1	 3.1	 2.8	 3.0	3	昨年度と比較して、生徒・保護者・教職員の全てで、否定的評価の割合が増えた。4学級完成年度の来年度に向け、科目・講座数の削減を行っているため、選択できるパターンが減っている。福島県教育委員会のホームページでは、総合学科は選択科目を「どれだけでも自由に選択できる」として、現実と乖離が大きい。現状の教員数でどう講座を展開していくか、学校全体を考えて、講座開設の科目・時間の検討が必要である。	

平成30年度 学校評価（年度末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

担当	「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・自己評価					円グラフの凡例			
	重点目標	重点(具体)項目	自己点検	評価方法 アンケート	実施状況 (回数等)	生徒 498人/500人 (99.6%)	保護者 449人/500人 (89.8%)	教職員 40人/45人 (88.9%)	学校評議員 3人/3人 (100%)	項目 毎 評価	中項 目 (平均)	大項 目 (平均)	自己点検・アンケート調査を受けての分析・改善策
生指	重点目標Ⅱ 規律ある生活態度の育成	1 基本的 生活習慣の 確立	服装・頭髪検査の 徹底	アンケート4 「服装、頭 髪遅刻指導 している」	・始業式、長期 休業期間後集 会での服装・ 頭髪検査及び 県下一斉服装 指導の実施等					3	3.0	2.8	
			交通ルールへの遵 守	アンケート5 「交通安全 指導の実 施」	・1年次生に交 通講話を実施 ・年間3回自 転車走行一 斉指導に参 画、クラス掲 示による啓発					3			幸いにも大きな事故は起きていないが、軽度の接触事故が起きている。(2 月1日現在報告ありが13件)今年度は加害事故も発生している。なによりも 生徒自身の安全意識が最も重要なので、意識を高めるような啓発を考えて いきたい。
		2 規律 厳守とマナ ー	挨拶や言葉遣い の指導	アンケート6 「挨拶・こと ばづかいが きちんとでき る」	・朝の登校指 導における 生徒への声 かけ等					3	2.5		挨拶や言葉遣いなどは、集会時や登校指導などによる指導はもとより、日 常の教師側の働きかけ・対応が重要であることから、毎日の授業や学校生 活・部活動などを通して生徒へのより積極的なかわり・指導に努めたい。
			問題行動の未然 防止	内部評価	・特別指導 (2/1現在) 9件 19 名	2	特定の生徒が重複して問題行動を起こしていること、また集団への帰属意 識・仲間意識から安易な気持ちで軽率な行動をしてしまう事案などから件 数・人数が増加した。保護者との連携を含め年次の先生方の対応が大変 であることから、学校全体での指導・サポート体制を充実させていくことが 重要である。						
教相	3 教育 相談の充 実	教育相談の充実	内部評価	・SCの先生を入学式で紹介し、教育相談について保護者への周知を図った。 ・教育相談利用を呼び掛ける掲示物を各クラスに掲示してもらった。 ・SC便りを発行し、生徒に配布した。	3	3.0	教育相談に関する情報について、お便りを活用しながら周知することが出 来た。気になる生徒の調査を行い、必要に応じてケース会を実施し、関係 職員で情報を共有しながら課題に向き合うことが出来た。						
			アンケート7 「教育相談 等悩みを相 談できる」	木曜日午後 にSCによ る教育相談 を実施。					2.9	2.9	スクールカウンセラーの先生と、月1回を目安に担当者会を行い、相談の状況 や気になる生徒の情報の共有に努めた。また、必要に応じて担任にも面談して もらい、より細やかな具体的な個別の対応について話し合うことが出来た。 カウンセリング希望者が増えている状況の中、年間30回の限られた時間で、カ ウンセリング予約を調整していくのが厳しい時もある。カウンセラーに頼り切り になるのではなく、教職員も生徒のよき相談者になることも求められていると感 じる。		

平成30年度 学校評価（年度末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・自己評価					円グラフの凡例			
担当	重点目標	重点(具体)項目	自己点検		アンケート調査評価点の見方 (4-そう思う、3-ややそう思う、2あまりそう思わない、1-そう思わない) 平均値=(4+3+2+1)÷4=2.5 1←(悪い)→2.5←(よい)→4				自己評価 4-できている 3-まあまあできている 2-あまりできていない 1-できていない			自己点検・アンケート調査を受けての分析・改善策
			評価方法 アンケート	実施状況 (回数等)	生徒 498人/500人 (99.6%)	保護者 449人/500人 (89.8%)	教職員 40人/45人 (88.9%)	学校評議員 3人/3人 (100%)	項目 毎 評価	中項目 (平均)	大項目 (平均)	
教務	重点目標Ⅲ	1 学習習慣と基礎学力の向上	授業態度の育成	アンケート8 「授業は真剣に受けている」		 2.8	 2.8	 2.5	 3.3	3	2.5	<p>昨年度と比較して、生徒・保護者と教員の認識の差がより大きくなったことが気かりである。学習意欲については、生徒間の差が大きい。地道に指導をしていくしかない。真剣に取り組めない生徒が少なくない講座では、指導に時間がかかり、意欲が高い生徒の学習の妨げになっている。</p> <p>昨年度と比較して、生徒・保護者と教員の認識の差がより大きくなった。生徒間の基礎学力の差が大きく、科目によってはどの生徒層を中心とした授業展開にするかが難しい。</p> <p>朝自習の実施、1年次の数学・英語の増単1単位、全年次での国数英の必修化を行っているが、生徒間の差が大きいのが現状である。学びの根幹となる、物事を覚える力とその経験(トレーニング)が不足しており、繰り返して学習をしても定着しない生徒が見られ、本来行うべき授業との兼ね合いが難しい。</p>
			授業改善	アンケート9「授業は分かりやすい」	校内研修会 (各教科1回)	 2.8	 2.8	 3.1		3		
			基礎学力の向上	内部評価	随時					2		
図書	重点目標Ⅲ	基礎学力の向上と進路実現	図書館利用の促進	内部評価	図書館運営委員会(2回)	<ul style="list-style-type: none"> 総学その他の授業、修学旅行事前研究等の際に充実したレファレンスを行った。 廊下に新聞コーナーを設置、本校関係の記事や時事問題を取り上げ掲示した。 図書館だより「銀杏」(毎月発行目標)に図書紹介を盛り込んだ。 昇降口・図書館前の掲示物でも新着図書等の紹介を積極的に行った。 「読書BINGO」、ハロウィンイベント等を実施し、利用者数貸し出し冊数の増加に努めた。 				2	2.8	<p>「読書BINGO」などの企画に積極的に参加する生徒も増え、読書活動に楽しむ機会は増やせてよかった。しかし、読書アンケートの結果から不読率は全国平均から10%高いことは解消されず、本離れしている生徒への環境作りがもっと必要である。図書委員会の活動指導が難しく、不活発な結果となった。</p>
課外による実力養成			アンケート10 「課外・小論文、三者面談等は、進路実現に役立っている」	4月より年間を通して実施	<ul style="list-style-type: none"> 1年次は夏季課外、通常課外(10月開始)を実施している。 公務員志望の生徒向けに、ケイセンビジネス公務員カレッジの講師を迎えて、4月にはオリエンテーション、また夏季課外を5日間実施した。 				3	3.0	<p>1年次の通常課外は継続して実施する予定。</p> <p>3年次の課外については、放課後の生徒指導や就職指導、会議等のため、なかなか実施することすら難しかった。</p> <p>3年次の課外授業は、部活動を引退した6月から受講する生徒が増えたが、今度は教員の方が忙しく、課外を実施できない状況になった。</p> <p>教育改革、入試改革の流れの中で、大学・短大が小論文を重視する傾向がうかがえる(福島学院短大も今年から指定校推薦で導入している)。グラフに見えるように、教員側の意識より生徒の不安感は大いと思われるので、講習会や各教科の協力を得た指導体制を充実させるべきではないか。</p>	
小論文指導の充実			アンケート10 「課外・小論文、三者面談等は、進路実現に役立っている」	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中の外部講師による指導1回 10月から随時 	 2.9	 3.1	 3.2	 3.7	3			
資格取得・検定の奨励	アンケート11 「資格取得・検定試験等に取り組む」	4月より年間を通して実施	 2.9	 2.9	 3.1	 3.3	3					

平成30年度 学校評価（年度末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

担当	「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・自己評価					円グラフの凡例				
	重点目標	重点(具体)項目	自己点検		アンケート調査評価点の見方 (4-そう思う、3-ややそう思う、2あまりそう思わない、1-そう思わない) 平均値=(4+3+2+1)÷4=2.5 1←(悪い)-2.5-(よい)→4				自己評価 4-できている 3-まあまあできている 2-あまりできていない 1-できていない			円グラフの凡例		
			評価方法 アンケート	実施状況 (回数等)	生徒 498人/500人 (99.6%)	保護者 449人/500人 (89.8%)	教職員 40人/45人 (88.9%)	学校評議員 3人/3人 (100%)	項目 毎 評価	中項目 (平均)	大項目 (平均)	自己点検・アンケート調査を受けての分析・改善策		
生徒会	重点目標Ⅳ 健康な心身の育成	1 生徒会活動の活性化	部活動加入率の向上	アンケート12 「部活動に参加している」	・部紹介	生徒 Q12 22% 78%	保護者 Q12 28% 72%	教員 Q12 35% 65%	評議員 Q12 33% 67%	2	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の加入率は近年低下傾向にあり、今年度は7ポイント%改善して5月1日現在で87.6%(29年度80.3%)となった。男女別では男子89.3%、女子86.5%で、学年別では1・2年が90%超であるのに対し、3年は77%に留まっている。年度始めの登録状況であるため、実際の活動状況については、大幅に下回っている実態がある。入部したい部活動がない、アルバイトが優先される等の原因があるだろうが、部活動再編の協議が進まない現時点で、数を減らす論議ばかりでなく、いかに活性化するかという全般的な話し合いが必要であると思われる。 ・部紹介では合格発表時のチラシ配布はやめ、入学後に冊子にして配布する改善をした。各部による部紹介は例年通りに行ったが、部活動加入率が低いことから部紹介の在り方や登録までの期間設定なども再検討する必要がある。 ・特設応援団を例年同様に編成し、夏の高校野球大会に向けて練習を重ねてきたが、今年度もチアダンス志願の応援団が多く、女子主体の応援団となった。ここ数年は団長が決まらず、生徒会副会長(女子)が壮行会及び球場応援で団長を務めた。応援の在り方の検討や、多人数の応援の醍醐味・楽しさを体験させるためにも、学年応援の実施なども検討するべきかと思われる。 		
			大会等の応援体制づくり	内部評価	生徒会及び有志	<ul style="list-style-type: none"> ・5月・7月には、生徒会で壮行会を実施した。 ・生徒会生徒の呼びかけで有志による応援団を編成し、その中から団長を含む幹部を選出した。 	3							
			小文化祭の成功	アンケート13 「生徒会活動が活発だ」	10月31日体育祭	生徒 Q13 12% 88%	保護者 Q13 12% 88%	教員 Q13 18% 82%	評議員 Q13 0% 100%	3			2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・小文化祭は、生徒会顧問の指導方針として、今回は顧問が原案を提示せず、生徒会役員が原案を作成、顧問教員と協議して企画立案し運営する方式で取り組んだ。企画の遅れや連絡調整のミスで混乱が生じた部分もあるが、生徒会役員はかなりやる気を出して取り組むことができた。他行事との関係で、クラス旗の制作や発表の企画が時間的余裕のない中で行われたので、ゆとりをもった日程設定が必要であった。生徒の感想は事後アンケートを実施して集約したので、生徒会新聞または生徒会誌で還元していきたい。 ・本校生徒にはリーダー経験者は少ないと思われるが、生徒会役員や部活動部長、委員会委員長等の代表生徒を行事の取り組みを通じてリーダーに育てる意識的な取り組みが必要である。 ・キャンペーン等には、外部の要請に応じて積極的に参加し、その責任を果たすことができた。
			キャンペーン活動の展開	内部評価	薬物乱用防止キャンペーン等	<ul style="list-style-type: none"> ・春秋のマナーアップキャンペーンでは、改札前でのアナウンスも担当し、積極的に乗車マナーの向上を呼びかけることができた。 ・生徒会役員と保護司会の要請で飯坂線3駅での薬物乱用防止キャンペーンに参加した。 ・H30年度県高総文祭優秀校公演実行委員会に、2年役員が5名参加した。会場(ドア)係の役割を担当し、積極的に活動できた。 	3							
ボランティア	2 ボランティア活動の推進	ボランティア活動の推進	アンケート14 「ボランティアに参加したことがある」	・随時	生徒 Q14 54% 46%	保護者 Q14 27% 73%	教員 Q14 18% 82%	評議員 Q14 0% 100%	2	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・教頭が窓口となり、関係機関から届いたボランティア依頼を各教科・部活動担当に割り振り、その担当教員が生徒に働きかけることで、参加者を募集した。年度当初の職員会議で割り振り案と進め方を提案し、承認を得て進めている。 ・担当となった教員の努力により、ボランティアに参加する生徒が確保され、参加した生徒達からは充実感が感じられた。福島北高校はボランティアに積極的であるとの評価が定着しているが、高校生のできる範囲内の活動、あくまでも自主的なボランティアであることを考え、そのあり方等について考えていくことが必要である。 			
		地域行事への参加	内部評価	・随時	<ul style="list-style-type: none"> ・教科、部活動、学校家庭クラブ、生徒会等で地域から依頼されたボランティアへの参加や地域の交流を行った。今後も継続していきたい。 	3								

平成30年度 学校評価（年度末自己評価表）

福島県立福島北高等学校

担当	「運営ビジョン」		評価指標		アンケート資料・自己評価					円グラフの凡例				
	重点目標	重点(具体)項目	自己点検		アンケート調査評価点の見方 (4-そう思う、3-ややそう思う、2あまりそう思わない、1-そう思わない) 平均値=(4+3+2+1)÷4=2.5 1←(悪い)→2.5←(よい)→4				自己評価 4-できている 3-まあまあできている 2-あまりできていない 1-できていない			円グラフの凡例		
			評価方法 アンケート	実施状況 (回数等)	生徒 498人/500人 (99.6%)	保護者 449人/500人 (89.8%)	教職員 40人/45人 (88.9%)	学校評議員 3人/3人 (100%)	項目 毎 評価	中項 目 (平均)	大項 目 (平均)	自己点検・アンケート調査を受けての分析・改善策		
施設	重点目標IV 健康な心身の育成	3 環境美化・環境整備	性の講演会、薬物乱用防止の実施	内部評価 性教育講演会 ・1年7/10 ・2年9/4	・予定通り実施				3	3.3	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 校内美化活動については環境委員会等の活動を通して大きな行事ごとに行っている他、毎日のSHR前の清掃活動を基本にして行っている。清掃用具は事前に予算化したことにより十分な補充ができた。生徒の意識を見るとほとんどの生徒が清掃状況に満足しているが教員の評価が少し低いのでさらに細かい箇所まで清掃を行き届かせていきたい。ゴミ用のビニール袋の有効活用も最近行き届いてきたようだ。 防災訓練は前期は地震対策と消火訓練を飯坂消防署の指導のもとに実施した。後期は火災避難訓練を行ったがスムーズな避難が行えた。避難整列隊形の周知と訓練の成果が表れたと思う。実際の火事を想定して避難経路や生徒の安全確認、防災機器の取り扱い方に至るまで細かく再確認をすることができた。 性教育講演会を現在の生徒の実情にあわせて1、2年で実施した。昨今多様な性に関する問題が増えてきているので、生徒個人個人の特性に見合った対応をしていかなければならない。 防災・安全点検については随時行っているが、施設部中心に学年の協力も得て前後期に見回りを行い消火器等の設置状況についての点検を実施した。 		
			校内美化	アンケート15「清掃はまじめに行っている」	校内美化活動の展開	<p>生徒 Q15: 3.4</p> <p>保護者 Q15: 3.1</p> <p>教員 Q15: 2.6</p> <p>評議員 Q15: 3.3</p>	3							
			防災・安全点検の実施	内部評価	前期・後期に実施	・予定通り実施							4	
総務	家庭・地域との連携	家庭・地域との連絡	保護者との連携	アンケート16「配布物は持ち帰って見せている」	<ul style="list-style-type: none"> PTA新聞 生徒会新聞 学年通信 各部よりのたより 	<p>生徒 Q16: 3.3</p> <p>保護者 Q16: 3.1</p> <p>教員 Q16: 3.2</p>	4	3.5	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの配布物については、アンケートの結果、生徒の否定的な評価は昨年より減少傾向にあり、各種行事への参加出欠票の回収率は良好である。 4月のPTA総会には、ホームページやメール配信での参加を呼び掛けた結果、269名(53.8%)の保護者が出席。出席率も年々向上している。(昨年266名、48.3%)また、PTA主催の各種研修会への参加者も増えている。 地域との連携を図るために、さまざまな学校行事への案内を実施。冬の通学路確保のための竹やぶ伐採作業は10月28日(日曜日)に役員11名、1年次保護者6名、2年次保護者13名、学校から12名の計42名で実施した。五箇町内には、事前に回覧板等でお知らせをしていたので通行に支障なく作業をスムーズに行うことができた。 地域の代表者と生徒、PTAがそれぞれの立場で意見・要望等を協議する機会を設定してはどうか。 				
			地域との連携	アンケート17「地域との連携が図られている」	<p>生徒 Q17: 2.9</p> <p>保護者 Q17: 3.0</p> <p>教員 Q17: 2.9</p> <p>評議員 Q17: 3.5</p>	3								
教頭	満足度	学校生活への満足度	意義ある学校生活	アンケート18「満足した学校生活を送っている」	<p>生徒 Q18: 3.0</p> <p>保護者 Q18: 3.2</p> <p>教員 Q18: 2.9</p> <p>評議員 Q18: 3.3</p>	3	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 全体として、生徒の満足度は高いとすることができる。昨年度より若干ではあるが、満足した学校生活を送っていると考えている生徒の割合が増加した。学年別に見ると昨年同様、2年次、3年次と学年進行で満足度が下がる傾向にあることから、不満の原因の把握と解消に努める必要がある。 保護者から見た生徒の満足度は引き続き高い傾向にある。 					